

全国保育実践交流会ニュース

2019 年 3 月 関西地域発行

関西地域は中国地域・近畿地域・北陸地域で交流しています。9 月の運動会はくるみで 3 地域（子ども 136 人）が集まり、3 月は北陸地域（子ども 88 人）近畿・中国地域（子ども 82 人）で卒園を祝う会をしました。

今回は北陸地域の保育園の紹介を致します。

どんぐり山共同保育園

普通の住宅を改装し、認可外保育園でスタートして 15 年が経ちました。

富山県のちょうど真ん中にある丘陵のふもとにあり、その丘陵を登ると立山連峰が見えます。

すぐ隣にも大きな自然公園があり、丘陵と合わせて毎日のあそび場になっています。

ずっと運営面で不安な時を過ごしてきましたが、

今年度から地方裁量型認定こども園になりました。

保護者の保育料の負担減はもちろんのこと、まだ十分ではありませんが職員の待遇を改善する事ができました。定員は 28 名。

「共に育ち合う」「保育園って楽しい」を大事にして、今まで以上に職員が協力し合って保育をしています。

また、「卒園後の学童保育を」の保護者の声に応え 9 年前に学童保育が始まりました。

今は地域の子どもたちの方が多く通っています。冬の遊びはもっぱら雪遊びですが、今年は雪が少なく残念。昨日やっと少し降り、たった 2・3 cm の積雪に飛び出していき、「やっぱしソリっておもしろーい」と大喜びです。



認定こども園三国ひかり（福井県坂井市三国町楽円 53-3）

認定こども園三国ひかり（120 人定員 内 15 名 1 号認定）は平成 30 年 4 月 1 日よりこども園に移行しました。平成 24 年から坂井市の公立保育所の民間移譲を受けて開設した保育園で、2019 年 4 月で 8 年目を迎えます。2,000 坪の敷地面積を坂井市が無償提供し、設計の段階から法人に任せられるという、保育行政を初めとする福祉には手厚い自治体であったことが今、有難く思われます。保育園の設計監修は鷹巣ひかり保育園を設計した福井大学名誉教授の櫻井康宏氏が三国ひかりも設計監修して下さったことが、安心して保育ができる環境と、子どもの発達を促す上に大きな影響力を与えているように思います。園舎は斎藤先生の「保育論」と井尻正二氏の「科学論」が反映されている設計になっています。こども園のある地域は、北前船で栄えたたずまいが今なお残る港町で、東尋坊を中心とする観光とカニや甘えびなどの漁業を主産業とする街です。北陸三大祭りの一つである三国まつりは、江戸中期から毎年（5 月 19 日～21 日）盛大に続けられているもので、街と地域全体で協力し合って受け継がれてきていることから、地域力のある地であると思います。そこに住む子どもたちは、そんな伝統を引き継ぐ大人たちに見守られて育っているの、明るく人懐っこさを持ち合わせているように思います。私たちはそんな地域で保育ができることを有難く思っていますが、今を生きる子どもの抱える問題は地域を問わず深刻さを増しています。それに応えていける保育を、職員一丸となって進めていきたいと日々考えています。

認定こども園 鷹巣ひかり

認定こども園 鷹巣ひかりは、平成元年に社会福祉法人の認可を受け、鷹巣ひかり保育園

27 年、認定こども園になり 3 年目を迎えています。認可されて 30 年の節目の年になります。30 周年記念事業として劇団仲間「森は生きている」公演を平成 31 年 1 月 12 日に開催しました。関西地域の姉妹園、東海地域の姉妹園の年長さんがたくさん見に来てくれました。斎藤公子先生に携わった園の年長さんもたくさん来ていただき、1069 人の来場があり大盛況で終えることができました。「森は生きている」公演は 15 年前にも行ったのですが、リピーターの方も多く、この劇の素晴らしさをそういうところからも感じる事ができました。公演が終わってから「素晴らしかった、または是非呼んでほしい」という声をいただき、大変でしたが開催してよかったと思いました。子どもたちは、園で「森は生きている」ごっこが流行り、リスになったり、うさぎになったり、12 月の神々になって遊んでいました。歌もよく歌い 1 月は「森は生きている」の世界に満ち溢れていました。観劇してくださった皆様、本当にありがとうございました。



最後、劇団仲間の人と鷹巣ひかりの年長さんで、「十二月の歌」を歌いました。



たいら保育園（福井県丹生郡越前町下河原 5 - 7）

陶芸と和太鼓・伝統文化の町にあります

たいら保育園は定員 60 名の認可保育園です。昭和 27 年にお寺の境内で開園し、移転新築を経て今年で 67 年目となります。毎年秋に、北陸 5 カ園がたいら保育園に集まり、1泊2日で合宿をしています。越前町は日本六古窯の一つである越前焼きの発祥の地です。合宿では各園でクリスマスに使うキャンドルたてを越前焼きで製作しています。越前焼きは粘土をひも状に伸ばし、手びねりで積み上げていく輪積み製法が特徴です。根気がある作業ですが年長の子も達はクリスマスにキャンドルで火を灯すことを楽しみにしながら、集中して取り組んでいます。焼きあがるまでには 1 か月ほどかかります。『だいずり』といわれる和太鼓も盛んな地域なので、合宿で和太鼓体験もしています。棒状ではなく丸い木片のバチを手のひらでしっかりとにぎり腰を低くして打つのが特徴です。『だいずり』は人々の働く姿や天地の恵みを感謝する心を表現しています。天つき・耳かき・肩など基本の動作はありますが、それをもとに子ども達が自由に表現する様子はとても楽しげです。今年は途中で感染症が出て断しましたが、例年合宿の最後には笛の音色に合わせみんなで大饗宴をしています



山中ふたば保育園

今年度、創立 50 周年を迎えた定員 80 名の認可保育園です。念願だった山の子学童も同じ敷地内に移転・新築し、0 才～学童期までの子どもたちが毎日とてもにぎやかです。そして、今年度 20 回目を迎えた「年長雪あそび交流合宿」が 2 月 2 日～5 日の 4 日間、73 名の子どもたちに、大人を加えると、総勢 120 名余が集い合いました。雪を見たこともない子どもたちも、リーダーと呼ばれる大人たちを中心に、思う存分スキーや雪あそびを楽しみました。たくさんの大人たちに声(心)をかけてもらい、挑戦し出来たことへの自信や喜びを胸に、それぞれが卒園へと向かっていき

関西

地域 1 月実践交流課 1 月 26 日～27 日

絵を並べて各園の報告、年齢別部会、鷹巣ひかりの実践・歴史に学ぶ・「子育て・教育の基本を考える」講師 堀尾輝久氏の講演会を行いました

